

準天頂衛星システム「みちびき」サービス開始記念式典 平井大臣 主催者ご挨拶（平成30年11月1日開催）

本日は、準天頂衛星システム「みちびき」のサービス開始記念式典にご参加いただき、誠に有難うございます。式典開会に当たり、準天頂衛星システムを推進してきた内閣府を代表し、宇宙政策担当大臣として、一言ご挨拶を申し上げます。

宇宙空間は、豊かな国民生活や、国の安心安全のため、欠くことのできないインフラとなっております。気象衛星、通信衛星の無い生活は、もはや想像もつきません。そして測位衛星も、既に現代の経済社会に深く組み込まれております。

今から12年前の2006年、産業界や関係府省における構想に始まり、準天頂衛星は、文部科学省、総務省、経済産業省及び国土交通省が予算を出し合い、また、宇宙航空研究開発機構が関わって、2010年に技術実証衛星「みちびき」初号機が打ち上げられました。

この開発成果を実用衛星として結実させ、我が国の測位衛星システムを確立するとともに、宇宙政策を開発から利用にまで広げていくとの確固たる方針の下、内閣官房・内閣府主導の準天頂衛星システムの整備が本格的に動き出し、現在までに、4機体制が整いました。

更に、宇宙基本計画では、今後、2023年度めどに7機体制を整備し、持続測位を確立していくこととされています。

本日は、この長い道のりの重要な一里塚である、我が国の測位システムサービスの開始の日となります。

宇宙開発利用の歴史に新たな1ページを刻むこの日を迎えることができましたのは、本日ここにお集まりいただいた関係者の皆様方のご努力とご協力の賜物であります。改めて深く感謝申し上げます。

さて、準天頂衛星システムにおいて得られる、精度の高い「位置情報と時間」は、地上データを始め様々なデータと組み合わせることで、地理空間情報、すなわち G 空間情報として新たな価値を生み出します。

高精度測位は、個人のニーズと組み合わせ、多くの個別サービスを生み出します。快適な生活をもたらすとともに、豊かなデータを提供し、新ビジネスの苗床となります。大きな社会変革をもたらす可能性を秘めております。

自動車や農機・工機の自動走行、船舶の自動着棧、ドローンを使ったマイクロ物流、さらには、インフラメンテナンス、保険金融、スポーツへの応用など、想像力に満ちた新しい取り組みが民間でも始まっています。

まさに、我が国のイノベーションの源泉となり、国民生活をより安全・安心で豊かなものにしていくと期待しております。今後、官民の連携を一層強化し、利活用をしっかりと前に進めてまいります。

宇宙の開発利用および準天頂衛星システムの利活用が我が国の更なる成長の原動力になることを心より祈念いたしまして、主催者としての御挨拶とさせていただきます。

平成 30 年 11 月 1 日 内閣府特命担当大臣宇宙政策担当

平井 卓也